

“あたらしもの好き”シニアの7割はスマホを所有している傾向

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

◆ポイント◆

- ・“あたらしもの好き”傾向のシニアの7割はスマホを所有している傾向
- ・欲しいものを“すぐに購入する”シニアでスマホを使っていないのは3割

1. 調査結果：

1-1. ライフスタイル変数と所有端末の関係

モバイル社会研究所が2019年1月に行った一般向けモバイル動向調査において、シニア（60歳以上）の、いわゆる“あたらしもの好き”の度合いを示すイノベータ度（注1）と、“欲しいものをすぐに購入するか、慎重に検討するか”の度合いを示す即時傾向（注2）の二つのライフスタイル変数のそれぞれと、所有しているスマートフォンやケータイなどの端末の関係について分析を行いましたので、その結果について報告します。

図1にイノベータ度と所有端末の関係を示します。

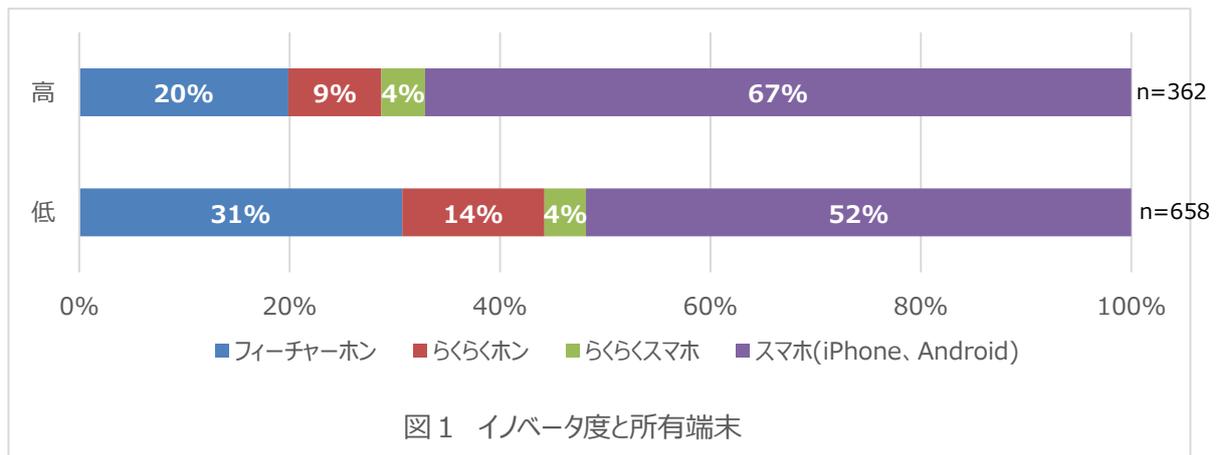


図1 イノベータ度と所有端末

図1では、イノベータ度の高い層の方が、比較的スマホ所有の傾向が高い事が分かりました。

図2に、即時傾向と所有端末の関係を示します。

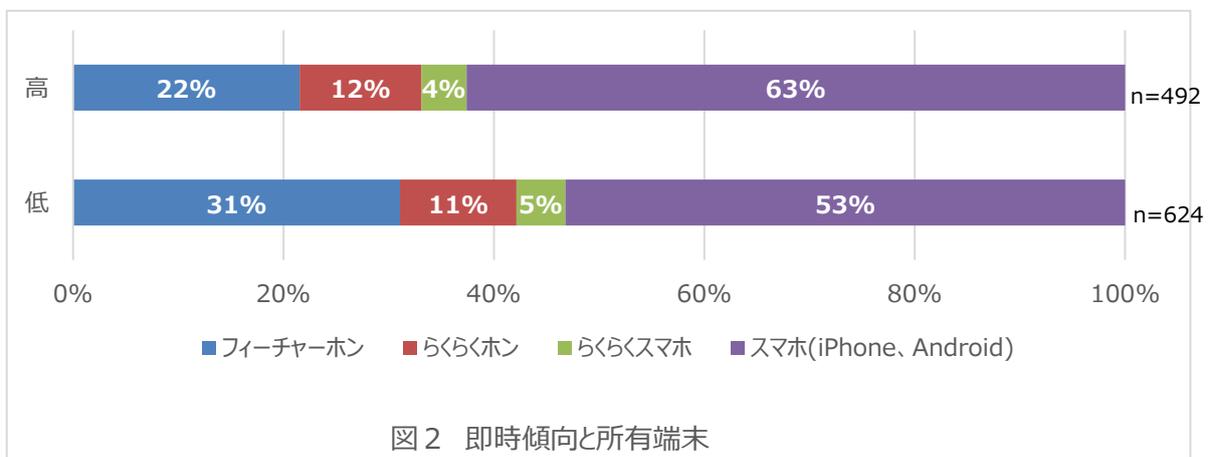


図2 即時傾向と所有端末

図 2 より、即時傾向がある（“欲しいものをすぐに購入する”）層が、比較的スマホ所有の割合が高い傾向にある事がわかります。

これらの事より、大まかには、シニアでは、イノベータ度が高く、即時傾向のある層が、比較的スマホを所有しているという事が分かりました。

また、イノベータ度や即時傾向の高低は、らくらくホンやらくらくスマホの所有している割合にはあまり影響を与えていない事も判ります。これらイノベータ度や即時傾向の高低は、フィーチャーホンであるかスマホであるかという事に影響を与えているようです。

以上、今回は、シニアのライフスタイル変数と所有端末の関係について報告しました。

注 1：イノベータ度は以下の 4 つの質問を行い 3 グループに分けている

2 つずつ対になった A, B の意見について、あなたの考えに近いと思われるものを選んでください。

(1:A に近い、2:どちらかという A に近い、3:どちらかという B に近い、4:B に近い)

【A】友達が何か変わったものを持っていてすぐ欲しくなる方だ 【B】友達が何か変わったものを持っていてもあまり気にならない

【A】レストランなどでは今まで食べたことのないものを注文するのが楽しみである 【B】レストランなどではいつものなじみのものを食べる方が安心してよい

【A】同じものをいつまでも使っていると飽きてしまう方だ 【B】同じものをいつまでも使っていると古いものに愛着が出て、なかなか取り換えられない方だ

【A】仕事などいつでもできるだけ目先の変わった新しい仕事をしたい 【B】仕事などいつもの仕事を同じようにやっていられればその方が安心してよい

注 2：即時・遅延傾向は以下の 2 つの質問を行い 3 グループに分けている

2 つずつ対になった A, B の意見について、あなたの考えに近いと思われるものを選んでください。

(1:A に近い、2:どちらかという A に近い、3:どちらかという B に近い、4:B に近い)

【A】臨時の収入があった場合すぐに使ってしまう方だ 【B】臨時の収入があった場合貯えておいて特別な支出に回す方だ

【A】ほしいものがあつた場合月賦やローンを利用してすぐ品物を手に入れる方だ 【B】ほしいものがあつた場合お金を積み立ててから買う方だ

2. 調査概要「一般向けモバイル動向調査」

調査方法	Web
調査エリア	全国
調査対象者	15～79 歳男女
サンプリング	性別：2 区分（男女）、年齢：13 区分（15 歳～79 歳まで 5 歳刻み）、都道府県：47 区分の合計 1,222 セグメントから標本を集めた。各セグメントから抽出する標本数は、国勢調査（平成 27 年国勢調査）の調査結果に基づいて決定した
調査時期	2019 年 1 月
有効回答数	6,926（2019 年 1 月）
主な調査項目	スマホ・ケータイの全般的な利用実態等

■ 問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com